

令和 6 年度学術委員会活動報告

令和 7 年 7 月 14 日

国臨協関信支部学術委員会

1. 活動報告

学術委員会は部門長兼任とする委員長 1 名、副委員長 1 名、部門長 5 名、部門員 15 名により、8 つの検査部門にて構成される。令和 6 年度においては、昨年度と同様に新型コロナウイルス感染症拡大の影響を鑑みつつ、Web 会議ツールを活用しながら国臨協関信支部学術委員規程 第 4 条（事業）に則り、会員の学術と技術の向上を図る活動を行った。活動内容の詳細については、「3.学術委員会活動報告」をご参照いただきたい。

2. 学術委員会（検査部門）構成

➤ 委員長

白倉 聡 （NHO 霞ヶ浦医療センター） ※ 生理検査部門長 兼任

➤ 副委員長

池上 陽太 （国立成育医療研究センター） ※ 病理検査部門長 兼任

➤ 検体検査部門

1) 生化学検査 / 血清検査

石川 政志 部門長（NHO 東京医療センター）

中嶋 菜緒美 部門員（NHO 千葉医療センター）

2) 一般検査

※ なし

3) 血液検査

吉村 咲子 部門員（NHO 東京医療センター）

➤ 輸血検査部門

鈴木 良枝 部門長（国立成育医療研究センター）

上杉 弘尚 部門員（NHO 渋川医療センター）

市川 遼 部門員（国立国際医療研究センター病院）

➤ 微生物検査部門

小林 昌弘 部門長（NHO 東京医療センター）

加藤 維斗 部門員（国立成育医療研究センター）

➤ 病理検査部門

池上 陽太 部門長（国立成育医療研究センター）

浅川 和也 部門員（NHO まつもと医療センター）

林 陽介 部門員（NHO 高崎総合医療センター）

➤ 生理検査部門

白倉 聡 部門長（NHO 霞ヶ浦医療センター）

品田 祐希 部門員（NHO 相模原病院）

小林 幸子 部門員（国立がん研究センター中央病院）

3. 学術委員会活動報告

1) 国臨協関信支部学会

テーマ「PRIDE ～必要とされる検査技師へ～」

開催日：令和5年9月7日（土）

開催方法：集合形式（国立がん研究センター中央病院）

学会長：吉田 茂久（NHO 横浜医療センター）

(1) 学会賞（学術奨励賞、学会特別賞、新人賞）の選考

学術委員会から選出された委員により、国臨協関信支部表彰規程第4条（選考）に基づき選考した。また、支部ニュースー学会特別号ー（令和6年11月発行）にて学術委員会副委員長による各賞の選考結果及び選考理由の報告、および関連記事の掲載を行った。

- ① 学術委員会の部門員15名が学会抄録31題の査読を行い、10項目5段階（加点点評価方法）で1次選考を実施した。
- ② 学会賞選考委員（6名）を組織し、1次選考の結果を確認し、2次選考として学会当日各会場に2名選考委員を配置し、ライブ配信にてスライド内容および発表態度等について5項目10段階（減点/加点点評価方法）で評価を行った。
- ③ 1次選考と2次選考の結果をもとに、大会議室控室にて最終選考委員会を行ない各賞の受賞者を選出し、第51回国臨協関信支部学会学会長に答申を行った。

【学会賞選考委員会メンバー】

- 委員長：白倉 聡 学術委員会委員長（NHO 霞ヶ浦医療センター）
- 副委員長：池上 陽太 学術委員会副委員長（国立成育医療研究センター）
- 委員：石川 政志 部門長（NHO 東京医療センター）
- 委員：小林 昌弘 部門長（NHO 東京医療センター）
- 関信支部：齋藤 広樹 学術担当副支部長（NHO 東長野病院）

【各学会賞の受賞者】

- 学術奨励賞：「GMP 3原則に基づいた輸血細胞療法室の品質管理構築を目指して」

竹内 優希（国立成育医療研究センター）

- 学会特別賞：「輸血検査における寒冷凝集素の影響が疑われた場合の検査フロー作成」

黒木 美弥（国立病院機構 渋川医療センター）

- 学会新人賞：「当院における67S語表の単音節別正答率の検討」

李 恩恵（国立病院機構 栃木医療センター）

2) 国臨協関信支部主催研修会

(1) 令和6年度国臨協関信支部主催 第2回研修会

開催日：令和6年12月9日（月）～令和7年1月10日（金）

テーマ：「知っておきたい！病理検査の最新事情 ～新しい化学物質規制と最新ゲノム情報～」

3) 学術委員会（部門ごと）主催の技術研修会

学術委員会各部門主催の実技研修会については、新型コロナウイルス感染症の影響により令和5年度と同様に令和6年度も開催を見送った。

4) 支部ニュース「身に付けよう覚えよう検査技術」への投稿

会員に対する「学術と技術の向上」を図ることを目的として、学術委員会として国臨協関信支部ニュースの「身に付けよう覚えよう検査技術」に学術情報の提供を行う為に投稿を行った。

(1) 第236号（令和7年1月発行）

執筆者：中嶋 菜緒美 検体検査部門員（NHO 千葉医療センター）

テーマ：「今流行中の梅毒って」

5) 支部ニュース「Case Study」の監修

新型コロナウイルス感染拡大の影響により研修会開催が困難な状況を鑑み、会員への学術支援の一助として支部ニュース第222号より「Case Study」が収載され、設問および関信支部 HP 掲載用の回答・解説について監修を行った。

(1) 第237号（令和7年4月発行）

テーマ：「免疫 このような結果が得られたとき皆さんはどのような対応をとりますか？」

監 修：中嶋 菜緒美 検体検査部門員（NHO 千葉医療センター）

6) Q&A 対応（ルーチンアドバイス）

会員からの検査時の問題点や疑問点に対して相談に対して援助を行うため、ルーチンアドバイス事業（Q&A）を行っている。例年「Q&A 入力用紙」（Excel）にて質問事項を受理し、各検査部門長が中心となり回答内容作成し、迅速な対応を行っている。

回答内容は、国臨協関信支部HP：会員専用ページの学術委員会・ルーチンアドバイス事業欄（<https://kanshinshibu.org>）に掲載を行い、会員に対して情報提供に努めている。

※ なし

7) 国立病院機構関東信越グループ主催研修会部研修

「各分野における精度管理の現状について」の講義および各施設における各部門別に精度管理の実施についてグループワークにて発表・質疑・応答を行った。

学術委員会部門長および関信支部副支部長と学術担当理事が運営に参画し、研修会進行やオブザーバーとしてグループディスカッションへ参加等の当日支援を行った。

(1) 令和 6 年度 臨床検査の精度および品質確保推進研修

開 催 日：令和 6 年 9 月 17 日(火) 9：30～16：15

開催方法：集合型形式（国立病院機構本部研修センター）

内 容： i 「各分野における精度管理の現状」

ii 「より良い精度管理を求めて」グループワーク問領域